

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-161	16-126	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Alcohol and its contributory role in fatal drowning in Australian rivers, 2002-2012. オーストラリアの河川における 2002～2012 年の溺死症例へのアルコールの関与		
執筆者		
Peden AE, Franklin RC, Leggat PA.		
掲載誌		
Accid Anal Prev. 2017 Jan;98:259-265. doi: 10.1016/j.aap.2016.10.009. Epub 2016 Oct 20.		
キーワード		PMID
アルコール、溺死予防、疫学、外傷予防、危険因子、川		27771578
要 旨		
目的： オーストラリアの河川での不慮の事故、特に溺死についてアルコールとの関連について調査し、予防戦略を明らかにする。		
方法： オーストラリアの National Coronial Information System（国家検死情報システム）を用いて、2002年7月1日から2012年6月30日の間の河川における不慮の溺死症例を同定し、このうち検死または毒性学報告でアルコール反応が陽性とされた症例を分析対象とした。血中アルコール濃度が0.05%以上（血液100mLあたり0.05gのアルコール）の症例は、アルコールが溺死に影響したものと判断した。		
結果： 河川での不慮の溺死 770 症例のうち、314 症例（40.8%）にアルコールが影響していた。このうち血中アルコール濃度が記録されていたのは 279 症例であり、このうち血中アルコール濃度が0.05%以上の者は196 症例（70.3%）であった。成人の溺死者では、血中アルコール濃度が0.20%以上の者は40.3%を占めた。河川における溺死者を、特性・事故発生状況別に比較しところ、溺死直前の行動で飛び込みを行った者（ $\chi^2= 7.8$; $p < 0.01$ ）、アボリジニーとトーレス海峡島民であること（ $\chi^2= 8.9$, $p < 0.01$ ）、事故発生の時間帯は夜（ $\chi^2= 7.8$; $p < 0.01$ ）または早朝（ $\chi^2= 16.1$; $p < 0.01$ ）で、アルコール反応を認めた。		
結論： アルコールはオーストラリアの河川における溺死に影響していた。		